

新しい 人材活用 プロシエアリング

外部プロ人材 活用成功事例



(株)サーキュレーション
代表取締役 福田 悠

No.55 DX戦略の全社認識を統一しグランドデザイン策定に成功

プロシエアリングとは、高い職能を持って複数企業で同時に活躍するプロフェッショナルを、経営課題に合わせて「雇用」ではなく「活用」という、新しい人材活用の手法です。2014年の設立以来、サーキュレーションには27,000名以上のプロが登録し、19,000件以上のプロジェクトで実績を上げてきました(2024年10月末時点)。プロジェクトは経営要素の強い案件が多く、新規事業の企画推進や、人事・広報等のミドルオフィス支援、さらにはIPO関連から中期経営計画の策定、CFOのシエアなども実行しています。

永続的に取り組むDXの グランドデザインを策定したい

今回は、マックス株式会社様(以下、同社)が、プロ人材と共に全社を巻き込んだDX施策の策定プロジェクトに取り組んだ結果、DXのグランドデザインを描くことに成功した際のプロシエアリング活用事例をご紹介します。

同社は1942年に設立された従業員2,000名以上の企業で、「世界中の暮らしや仕事をもっと楽に、楽しくする」をコーポレートビジョンに掲げ、インダストリアル機

器、オフィス機器、HCR機器の製造販売などを行っています。

課題 目的・ゴールが不明瞭で具体的な策定に至らない

同社は、社内で約1年間かけてDXの議論を続けてきましたが、目的・ゴールが不明瞭だったため、具体的な全社横断施策の策定には至らず、推進できていない状況でした。DXは今後永続的に取り組むテーマであるとは認識していたため、まずは推進体制を構築しグランドデザインを設計したいと考えていました。そのような状況で、必要な時に専門性の高い人材を雇用せず活用できる「プロシエアリング」に出会いました。

解決策 全社を巻き込み体制構築 個別プロジェクトを推進

サーキュレーションからはプロ人材のご紹介とともに「全社を巻き込んだDX施策の策定」という解決策をご提案しました。

今回ご紹介したプロ人材の齋藤祐介氏は、東京大学卒業後、新卒で入社したA.T.カーニーにおいて食品業界・製造業・金融業を中心に戦略コンサルティングに従事してきました。オペレーション再構築、価格戦略、コスト戦略、組織統合などに強みを持っています。その

後、東南アジアで起業し、農業・食関連の事業を展開し国際的な賞であるForbes30under30とEchelonTop100Startupに選出されました。フリーコンサルタントとして活動後、ラクスル(株)へ入社し、ハコベル事業本部にてデジタル戦略部長として運送プラットフォームのデジタル化の推進を主導、その後大手企業向けに物流DXを支援するソリューション事業部を立ち上げていらっしゃいます。アカチセ(株)を創業し、製造業・流通業などオペレーションが複雑な産業のDX支援事業と、AI-SaaS事業(生成AI業務フロークラウド「ゲキカル」)を展開中のDX推進のプロ人材です。

●全体方針の策定

まずは、経営陣のDXに対して共通理解をし、認識を揃えることを目的としたワークショップを計画・実施しました。このワークショップを開催したことで、DX推進における重要な課題や取り組むべき方針についての議論が行われました。その成果を基に会社全体のDX推進に向けたロードマップの作成に取りかかりました。さらには、DX認定制度の導入を想定した資料作成も並行してスタート

■福田 悠

中央大学理工学部を卒業後、インテリジェンス(現パーソルキャリア)へ入社。製造業を中心とした約600社の人材採用を支援。大手法人顧客専門部門を経て、同社初となる社内ベンチャーの立ち上げに携わる。2014年、サーキュレーションの創業に参画。中小企業や製造業大手顧客を担当しながら、地方金融機関とのアライアンス、地方7拠点の設立を主導。2023年4月より代表取締役社長に就任。

■株式会社サーキュレーション

本社：東京都渋谷区神宮前 3-21-5 サーキュレーションビル ForPro
TEL：03-6256-0467 URL：https://circu.co.jp/

しました。

●組織体制の構築

ワークショップの結果を受け、本プロジェクトを進めるための推進体制の構築を行いました。具体的には、役割分担の明確化や、プロジェクトの進行状況を効率的に管理するための会議体の提案も行い、スムーズな推進ができるように体制を整えました。

●戦略浸透

策定したロードマップや推進体制について、組織内での認識を深めるための浸透計画を立案しました。これにより、経営陣だけでなく事業部門のスタッフとの情報連携もスムーズになり、正しい情報の共有がタイムリーにできるようになりました。また全社員への浸透を目的としたコンテンツの作成も進め、実行しました。

●個別プロジェクトの企画推進

さらに、人・組織DX、データ基盤、業務基盤といったテーマ別に分かれたコンテンツを作成し、それぞれの分野での具体的な施策の提案も行いました。これにより、実際の施策の実行と、それを支えるDX人材の育成までを含めた支援が可能となり、プロジェクトの目標に向かって確実に前進しています。

成果

ロードマップが完成し
部門別の展開が可能に

同社はプロシエリングの活用により、DX施策の策定に着手し、

成功事例

- No.50 WEBマーケティングを強化し顧客数が前年の8倍
- No.51 工場ラインの自動化で生産性向上と人員最適化に成功
- No.52 新規事業における顧客インタビューの実施・内製化に成功
- No.53 SNS担当チームのスキルが向上、フォロワー数も増加
- No.54 数字ベースの営業マインドへ転換、前年比330%の売上達成
- No.55 DX戦略の全社認識を統一レグランドデザイン策定に成功



左：マックス株式会社 デジタルイノベーション統括部 部長
DX 推進プロジェクト リーダー 白井 啓一氏
中央：プロ人材 齋藤 祐介氏
右：サーキュレーション リーダーコンサルタント 徳永 雄大

DX施策全体のグラウンドデザインを描き、中長期経営計画で部門ごとの施策として発表することができました。また、部門ごとの施策を策定することに成功しました。具体的には以下の3つの成果を実感されています。

- ①ステークホルダー（経営陣）とDXビジョンを共有するためのプロジェクトロードマップが完成した
- ②DXを推進していくうえでの課題が整理されたことでプロジェクトの優先順位が明確になった
- ③製品・サービスDX、生産・品質保証DX、データ・業務基盤DX、人・組織DX、などの部門ごとの施策が策定できた

プロシエリング×DX推進 プロジェクトでのご支援ポイント

自社の成長基盤を創るために、自社内で推進できる人材の確保に向けて社内異動や兼務、採用活動

を強化する方法がある一方で、実際に各分野での支援実績が豊富な人材に伴走してもらうことも非常に効果的だと感じられる事例です。社内メンバーの人脈以外でプロ人材を探す手段としては、業務委託での支援を通じてアドバイザーになってもらう方法があります。雇用する場合と比較してミスマッチなどのリスクを低減できる点も有効な手段となりえます。

DX戦略の設計、実装までの実績を持ち、社内浸透施策まで設計し、運用フェーズまでサポートできる人材というのは、実際に採用するとなると希少価値が高く、採用が長期化するケースも見受けられます。また仮に良い人材に出会えたとしても給与は高額で、採用競合となる企業も多くなる傾向にあります。そのような人材を採用したいという要望があった場合はプロシエリングの活用を検討・提案してみてもいかがでしょうか。